

# 愛隣館研修センターニュース 第83号

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町151 2F TEL 075-621-3849 FAX 075-621-1579  
 E-mail : airinday@sunny.ocn.ne.jp http://www.airinkan.net 振替 01020-5-39321  
 編集発行所：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者：平田 義

## 「福島は今」

～日本基督教団若松栄町教会教会員・会津放射能情報センター代表  
 片岡輝美さんから～

未曾有の大震災から9か月が経過いたしました。今なお放射能の影響で避難を余儀なくされている方々や、放射能に怯えながらの生活を強いられている方々がおられます。今号では、会津若松において、「放射能から子どものいのちを守る」働きを続けておられる、会津放射能情報センター代表の片岡輝美さんに、「福島は今」というテーマで、震災直後から現在に至るまでのお話をうかがいました。

一震災直後に福島第1原子力発電所の爆発事故があったわけですが、どのように受け止められ、どんな動きをなされたのですか。

片岡：まず、大変なショックを受けました。震災前からプルサーマル\*1の導入反対の活動を多くの市民の方々と取り組んでいたのですが、まさか、実際に原発の事故が起こるとは、思いもよらないことでありました。ですので、ショックを受けるとともに、一種のパニック状態になりまして、まず子どもたちのいのちを守らなければと思い、放射能被曝を避けるために、息子、甥、姪を連れて三重県に2週間ほど避難をいたしました。

一避難生活のあと、会津に戻られて「放射能から子どものいのちを守る会・会津」を立ち上げられるわけですが、その経緯をお聞かせ願えますか。

片岡：これまで、一緒に活動してきた人たちの中には、逃げた人もそうでない人もいました。ですので、散り散りバラバラになっていたわけですが、被曝を恐れて逃げることができる人は逃げてもいいんだよっていう確認をとりあい、お互いの情報交換を行ないながら、つながり続けていました。その後、会津に戻り、不安な中での生活をしている人たちが多くいることを知り、もう一度何かを始めなければと思い、まず「ミツバチの羽音と地球の回転」\*2の上映会を鎌仲ひとみ監督を交えて行いました。250名もの人が集まりました。そこで、多くの方が目に見えない放射能に怯えながらの生活を余儀なくされていることがわかり、放射線量の測定を始めることとし、「放射能から子どものいのちを守る会・会津」を立ち上げることになりました。そして、自分ひとりが不安を感じているのではないことを確認し続け、頻繁に学習会を開き、そこから教育長への要請行動など具体的な活動を始める

ことになったのです。

一それが5月の頃のお話ですよね。その後、「会津放射能情報センター」設立へと向かうわけですが、「会津放射能情報センター」の主な働きはどのようなものなのでしょうか。

片岡：「子どものいのちを守る会」はゆるやかなネットワークのようなものでしたが、「会津放射能情報センター」は、今後長期戦になるであろう、放射能とのたたかいに備えて、趣旨に賛同してくださる方々を募って会員制で活動しています。会津の方々のみならず、全国の方からの協賛を得ながら、講演会をはじめ行政への働きかけなどの取り組みを行っています。その中で、南西ドイツ教会協議会(EMS)からの援助が得られ、240万円で、食品放射能測定器を購入いたしました。今現在は試運転中で、一般市民からの食品持ち込み測定は12月半ば頃になる予定です。

一食の安全の問題ですよね。本来、国が責任もって行うべきものだと思うのですが、それを市民団体で行っていくことは何故なのでしょう。

片岡：今、福島だけでなく全国の人たちも子どもたちに何を食べさせていいのか不安に思われる方も多いと思います。子どもたちに汚染した食品を食べさせたくないのは誰にとっても当たり前のことです。しかし、放射能の数値を公表することを政府は行ってきたとは言いがたいです。政府や地方自治体はその責任において食品放射能測定値を全て公表すべきであり、それが安全かどうかを判断するのは私たちであると意識を変えていくことが大切だと思うのです。暫定基準値などにより全てを明らかにしない政府の無責任さそのものが風評被害の根っこだと思います。

—その通りですね。

片岡：食品だけでなく、今、風評被害を恐れて、年間被曝1ミリシーベルトを越える汚染地域の除染に国が費用出す「汚染状況重点調査地域」の回答を会津若松市は保留としました。つまり、除染を始めたなら、せつかく戻りつつある観光客の足が再び遠のいてしまうのではないかと危惧しているのです。命よりも経済が大切だということです。地域住民が行うのであれば、町内会毎に補助金を出すというのですが、危険な除染作業を市民が行っていくことはどうなのか。国が責任をもってやるべき作業であると思うのです。震災直後も、会津では原発の20km圏域の大熊町の方々を受け入れてきました。放射能が飛んでいるかもわからない時期に、会津市民はボランティアとして積極的に炊き出しなどを行い、生活を支えてきたわけですが、本来ならば、危険であるかもわからないのならば、室内退避させるべきではなかったのかと思うのです。巧みに人の善意を利用しているのではないかと思えない状況が、震災直後も、今も続いているのではないかと思います。

—今、一番心配されていることはどんなことでしょうか。

片岡：会津では、先ほど述べた除染作業のこともそうなのですが、放射能の数値がでることによって、安全でないというレッテルを貼られることを自治体や観光業界は恐れています。そこで、今、「会津は安全だ！」の一大キャンペーンが行われているように見受けられます。会津は確かに、福島県内でも有数の観光地です。これ以上風評被害が広まることを恐れて、安全であることを躍起になって宣伝しようとしています。そのことで、県内の放射線空間線量が高い地域と、原発から100km離れても危険を感じている会津地方の私たちが、分断されていくのではないかと感じています。メディアの言うことが本当のことではなく、福島県民の生の声に耳を傾けてもらいたいのです。さらに、今後起こると思われる子どもたちの身体への異変をとっても心配

しています。また、報道されていないけれど、既に起こりつつある症状もあります。例えば、鼻血が止まらない、倦怠感を訴える子どもの報告は夏前から続いています。最近では爪がはがれやすい症状や心臓が痛いという子どもが増えてきているとも聞いています。内部被曝により筋肉に入り込むセシウムは、心筋を壊し突然死を引き起こす可能性があるとも言われています。私たちはどのようにしていのちを守っていくことができるのか、本当に心配しています。

—最後に、今、福島から伝えたいことはどんなことでしょうか。

片岡：放射能が怖いと思う人は必ずいます。それを神経質だと思わないで欲しいです。放射能の問題を自分たちの課題として受け止めて、考えていって欲しいです。みなさんの地域にも原子力発電所はあるでしょう。安全だと言っていた原発の事故が福島で起こりました。それにより、多くの方々のいのちが脅かされています。このようなことがみなさんの地域で起こらないためにも、原発を止める運動を展開していっていただきたいです。3・11前に私たちの生活が戻ることは不可能になりました。子どもの命を守る社会を作れるギリギリのところに今、私たちは立っていると思います。どの命もしっかりと生きることが出来る可能性を求めて共に歩んでいきましょう。

- \*1 プルサーマル…再処理で回収されたウランとプルトニウムを混ぜて燃料とし発電する方法。2010年8月に佐藤雄平福島県知事がプルサーマル導入を発表した。
- \*2 「ミツバチの羽音と地球の回転」…上関原発計画に向き合う祝島の人たちとスウェーデンで持続可能な社会を構築する人々を描いた作品

会津放射能情報センターホームページ  
<http://aizu-center.jimdo.com/>

## 「あたらしい いのち を産むもの」

青い空、白い砂浜、エメラルドグリーン的大海。ビーチを目の前にした時、陳腐ですが、「樂園」という言葉しか頭に浮かびませんでした。しかし歴史の中で、その海が紅く血の色に染まった時がありました。

ここ数年、毎年10月半ばに有志の方々と共に沖縄を訪れています。当法人で毎年6月に行われている沖縄平和研修と同様に、福祉と繋がる平和を沖縄から考える為です。例年、伊江島から北部、中部、南部と本島を巡っていますが、今年は新たに慶良間諸島、渡嘉敷島へ

足を運びました。

沖縄戦において米軍が最初に侵攻を開始したのが慶良間諸島でした。



↑平和ガイドをされておられる瀬戸さんの案内の元に、島の各地に残る戦跡、集団自決跡地を巡りました。

1945年3月、日本軍(沖縄守備軍、以下守備軍)は沖縄本島へ上陸する米軍の背後から奇襲を仕掛ける想定で、慶良間諸島の島々に海上特攻艇を配備していました。

しかし予想に反して慶良間諸島から侵攻を開始した米軍に対し、奇襲を想定して防備も薄かった守備軍は特攻艇を使用する間もなく、米軍は慶良間諸島へ上陸していきました。物量にも劣り対抗することも出来ない守備軍と住民は山の中へと逃げ込み、当時の皇民化教育の下、「生きて捕虜となり辱めを受けるより死して国に殉ずることが国民としての本分である」として、強制集団死(集団自決)という凄惨な結末を迎えることになります。

沖縄戦全体における強制集団死の犠牲者の数が1000名以上にのぼるといわれている中、慶良間諸島だけで合わせて700名もの命が犠牲になりました。また当時、慶良間諸島の中で軍が配備されていなかった島では犠牲者が殆ど出ていないことから、住民を守るためにやってきた守備軍に死を迫られた強制集団死の悲惨さを物語っています。

また沖縄戦において犠牲になったのは沖縄の住民だけでなく、朝鮮半島から強制的に連れてこられ、軍夫、慰安婦として苦役を強いられていた人々も非業の死を遂げました。慶良間

の島々に連れてこられた朝鮮人軍夫、慰安婦の人々も、住民の強制集団死が起こった一方で、迫害や虐殺によって犠牲となったのです。

渡嘉敷島の「アリラン 慰霊のモニュメント」の碑文の一つに詩が刻まれています。

わたしはどこから来てどこへ行くものであろう  
 /わたしは自分を捜しに父たちの国 母たちの故郷を訪ねる / 白い一本の恨(ハン)の道 / 恨(ハン)の道をたどれば / 死者たちの哭声が聴える / 父たちよ 屈辱に貶められた 母たちよ / わたしは いま あなたたちの恨(ハン)から生まれる  
 あなたはわたしなのだ  
 あなたたちは わたしの中で 蘇る / そしてわたしたちは あたらしい いのちを産むものとなるだろう

今、沖縄県八重山地区で中学校の教科書の採択を巡って対立が続いています。軍による強制集団死という事実を消し、歪曲された歴史が学校教育の中で子ども達に教えられるようなことがあってはなりません。

書き直された、誤った歴史でなく、正しい歴史を知り、自身を見つめることによって「あたらしい いのちを産むもの」になれるのではないのでしょうか。(安野友喜)

■ 2011年7-11月の行事報告 ■

- 7/3 SIEA閉校式及び開校式(第33回)
- 7/20医療的ケア学習会(「呼吸」について)
- 7/28『遊隣』クッキング企画
- 8/04『遊隣』海企画 海水ってしょっぱいネ→
- 8/7-8 向島伝道所キャンプ
- 8/11-12『遊隣』キャンプ  
in びわ湖こどもの国
- 8/16-17『遊隣』キャンプ  
in 同志社リトリートセンター
- 9/5.6.7.9 BBQ in愛隣館 テーマは多文化共生  
【沖縄・韓国、そして東北被災地を思いながら…】
- 9/14 イエス団京都ブロック職員研修会  
【記憶の継承】=在日朝鮮人2世の私から=  
=1世、3・4世に思い、日本人に願う。そして父母の故郷を願って=  
講師: 呉光現さん  
(聖公会生野センター総主事・イエス団評議員)
- 9/23 フィールドワーク at 京都東九条  
事前学習会:「東九条のこれまでの歩み」  
講師: 宇野豊さん(桃陵乳児保育園園長)
- フィールドワーク:「東九条の今」  
講師: 村木美都子さん  
(NPO法人東九条まちづくり  
サポートセンターまめもやし専従)
- 10/5-6デイサービス淡路島一泊旅行  
地酒ご購入! →



- 10/27-28デイケア・シサム  
淡路島一泊旅行  
海賊船にて☆→
- 11/8「寿[kotobuki]」来館  
素敵な歌声をありがとう!
- 11/15-17 宿泊体験プログラム
- 11/13向島秋の祭典 地域のお祭りに参加しました!
- 11/20向島にっこりフェスティバル!
- 子どもたちとの交流、文化の異なる人との交流、東日本大震災の復興を願って、参加者同志の交流の輪が広がっています! よろず屋の中村さん、福島のおいしい豚のかしら焼きをありがとうございました!
- 11/22医療的ケア基礎講座
- 11/26-27 医療的ケア研修in岐阜



柏木正行さん(1945-2006)の魂に触れる ⑩

「詩」

詩はこっそり書くものです  
 他人に見せるものではありません  
 そうしないと  
 書きたいことが  
 書けなくなるのです

詩集「路」より

# 『まけるもんか岩手！マグカップ』 絶賛販売中！

～ イエス団救援対策本部 支援活動 ～

## 東日本大震災支援

あなたのエールを岩手に！

『まけるもんか岩手！マグカップ』の購入を通じて  
岩手へエールを送りませんか。



**1個 500円!**

イエス団東日本大震災救援対策本部では、支援活動の一環として、「まけるもんか岩手！のマグカップ」の販売協力をさせていただいております。一人でも多くの方々にご購入いただき、岩手の方々へエールを送りたいと思います。是非ご購入ください。また、このマグカップの売り上げは「東日本大震災関西障害者応援連絡会」を通じ、岩手県内の障害者福祉事業所の利用者及び地域生活者の生活・余暇支援活動に必要な物品の提供。とくに被災の大きかったグループホーム等生活者への支援等に活用させていただきます。

- 【名称】東日本大震災支援「まけるもんか岩手！マグカップ」
- 【企画制作】東日本大震災関西障害者応援連絡会
- 【デザイン画】岩手県社会福祉協議会障がい者就労支援振興センター  
デザインアドバイザー山崎文子
- 【製造元】山大大野商店(岐阜県土岐市)
- 【販売元】岩手県知的障害者福祉協会・岩手県社協障がい者福祉協議会(合同支援プロジェクト)  
東日本大震災関西障害者応援連絡会・他協力団体
- 【東日本大震災関西障害者応援連絡会参画団体】  
ひまわりの家(奈良県磯城郡)、ちいるば(奈良県生駒郡)、どうで(奈良県山辺郡)、  
アクティブセンターうだ(奈良県宇陀市)、もちつもたれつ(奈良県大和高田市)、  
マーブル(奈良市)、わたぼうしの会(奈良市)、クワイティブハウスパンジー(東大阪市)、  
ベテスタの家(京都市伏見区)、イエス団 愛隣館(京都市伏見区)、  
相楽福祉会(京都府相楽郡)、西陣会(京都市上京区)

【ご購入に関するお問い合わせは】

【愛隣デイサービスセンター】 TEL: 075-621-3849 まで

## 2011年 クリスマス献金のお願い —これからの“地域”を見据えて—

今日まで、皆様方のご理解とご支援によって支えられ、活動を続けることが出来ましたこと、心より感謝します。2012年4月からの、「自立支援法」「児童福祉法」の「改正案」が示されました。来年度からは新しい枠組みのもと動き出すこととなります。しかし、どのような法律や制度ができたとしても、隙間はできてしまいます。私たちは、その隙間を埋めていく働きを、これからも続けていきたいと願っております。その働きのために、皆さまからのご支援、ご協力をお願いいたします。

これまでも皆様方には多額の献金をして頂いているにもかかわらず、新たなお願いをさせて頂くのは、誠に恐縮ですが、今年度も夏期献金にご協力頂きますよう、改めてお願いを申し上げる次第でございます。

### 《クリスマス献金・要項》

- 目的：障がい児・者とその家族とが地域で安心して暮らしていくことができる為に、愛隣館研修センターの今後の活動を支援する
- 目標金額： 3,000,000円 ※ 口数、金額ともに任意です。
- 送金方法： 郵便振替 01020-5-39321
- 口座名： 社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター



★お知らせ★  
▽愛隣館研修センターニュース83号  
完成▽ご意見・感想お待ちしています(さ)  
▼クリスマスシーズがやってくるように賑やかな年が明かすか、何かウキウキとした気持ちや、新年のめざましい感じが、頭から離れないのが、すべからず、家も財産もすべて流されてしまつた方、生かされても、許さず、生かされても、射能に怯え、なやみ、生活に余儀なく、生かされても、深い悲しみと苦しさを、暗闇で迎える、生かされても、平和の道、歩みを進める、こめを生み出す、味を噛みしめたいと思ふ、すみずみにまで届くように、継続したい。

★編集後記★  
▽愛隣館研修センターは、12月29日(土)に、12月30日(日)とさせていただきます。